

第4回農業大学校跡地周辺地域整備有識者会議〈議事録（要旨）〉

日時：令和3年11月30日（火）18:00～20:00

会場：AP 東京丸の内・A ルーム

○出席者

〈委員〉

- ・永谷委員（東京大学）、神山委員（NEDO）、矢内委員（ロボット工業会）、大木委員（三菱総合研究所）、目良委員（埼玉県）

〈オブザーバー〉

- ・内野都市計画課長（鶴ヶ島市）

〈事務局（埼玉県）〉

- ・小貝次世代産業幹、堀口主幹、新井主査、清水主事、（他、リモート参加者あり）

〈支援業務受託者（日本総研）〉

- ・（会場）今井、清水、岡村（リモート（福島））佐藤、杉本、桑山（リモート（東京））卓

【議事】

1. 開会

（司会：堀口主幹）

○埼玉県産業労働部・副部長挨拶

（目良副部長）

皆さんこんばんは。埼玉県産業労働部副部長の目良でございます。

本日、第4回農業大学校跡地周辺地域整備有識者会議を開催させていただきましたところ、皆様には大変お忙しい中、夜間にもかかわらずご出席いただきまして、心から御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの影響もあり、皆様方と一堂に会するのは、5月12日の第1回有識者会議以来になりますが、その間もメール等で貴重なご意見、ご提言をいただけてきました。

おかげさまをもちまして、7月には、農業大学校跡地周辺地域整備基本構想を策定することができました。この場を借りて、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

今年度はこの基本構想を踏まえて、より具体的な基本計画の策定を予定しております。夏から秋にかけて、皆様方をはじめ、様々な企業団体からご意見を伺い今回中間報告を取りまとめたところでございます。

この後詳しく説明いたしますので、忌憚のないご意見をよろしく願いいたしまして、簡単ではございますが、私の挨拶に代えさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

（堀口主幹）

〈開会〉

〈堀口主幹・自己紹介〉

〈資料確認〉

2. 出席者紹介

（堀口主幹）

〈有識者委員の紹介〉

〈オブザーバーの紹介〉

〈事務局（埼玉県職員）の紹介〉

〈支援業務受託者（日本総研）の紹介〉

3. 中間報告書（原案）について

○中間報告書（原案）説明

（日本総研・杉本）

〈資料2 中間報告書（原案）について説明〉

4. 原案の検討

（進行：永谷委員長）

事務局の説明資料とただいまの説明を踏まえて、各委員の方にご質問やご意見、情報をいただければと思います。まずは、この事業の主体として、埼玉県の委員からご意見を伺いたいと思いますので、目良委員からご発言いただきたいと思います。それ以降はお手元の委員名簿の順とさせていただきます、最後に私が発言させていただきます。

まずは、埼玉県の日良委員から、よろしく申し上げます。

（目良委員）

幾つか私の方からご質問と皆様方からのお知恵をお借りしたいことについて説明します。

資料（中間報告書（原案））の22ページの関係ですが、ロボット開発イノベーションセンターでの施設・設備等で、多目的作業室や開発ミーティングルームなど必要な施設・設備について記載があるのですが、必要な理由と根拠等が見当たらないのでその点について説明していただきたいと思います。

また、他県の類似施設での利用状況も含め教えていただければと思います。

（日本総研・杉本）

※手持ち資料「施設・設備補足説明用資料_211129-1」を基に補足説明。

（目良委員）

大野知事の関心が非常に高く、それなりの説明責任を果たしていかなければいけないので、実現性、必要性について詳しくお伺いしたかった。また、今伺ってみると、全部整備していくとかなりの分量になると思うのですが、これらの施設・設備を全て整備していくことが妥当かどうかについて、委員の皆さんにお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。

（神山委員）

ここに書かれている施設・設備等に関して、比較的一般的というか、こういった施設であれば、備えられているものになると思う一方で、質問になってしまうかもしれませんが、カンファレンスホールに関してどれだけ必要なのかというところもありまして、近隣に用意するというような発言もありましたけれども、その施設の大きさにもよるとは思いますが、カンファレンスホールを設置するのであれば、コワーキングスペースとか、実験スペースとか、多目的作業室なんかを充実させたほうが良いという可能性もあるのではないかと。もちろん、近隣にそういった場所がなくて、有効活用できるという見通しがあるのであれば、もちろんカンファレンスホールを設置するのも有効な手立てとは思いますが。私はその点を考慮してもいいのではないかと考えました。

(矢内委員)

私が感じたことは、基本的にこのセンターの中で何をやらせるか、何を目的として、ここのセンターのミッションとしてあるのかというのがあって、それに必要な施設・設備がこうなんだというならわかるのですが、最初に施設・設備となってくると、確かにオープンイノベーションを促進するというところではあると思いますが。

例えば、先ほどもあったようなコワーキングのために、こういう施設が必要であるとか、例えば教育訓練もやるので、そのためにはこういうものが必要だとか、最初に目的があってそれに必要な施設がうたわれていた方が良いのではと思います。その点が抜けてるような感じがしました。

(大木委員)

施設に関するところだけとりあえず申し上げますと、今、ご指摘が出ていた話と、基本的には共通すると思いますが、矢内委員のご発言の目的の整理というところと、その中で何を優先するのかというところの整理が要ると思って聞いていましたので補足させていただきます。

これに絡んで少し思っていたのが、元々の基本構想と基本計画との関連性を少し整理した方が良いのではないかと考えておりました。特に元々の構想のところでは事業の特色として、例えばロボティクスセンター利用企業、ユーザー企業、導入、社会実装、開発、共同研究、圏央道周辺ものづくり企業といった点がある程度スコープとして整理されていると思いますが、それと対応させた時に、この圏央道周辺のものづくり企業等との関係性が見えにくいなと思っておりました。

先程、カンファレンスホールの必要性の話があったと思いますが、対象とするユーザーに対して本当に何が必要かという点を整理をもう少しした方が良いのではないかなと思った次第です。

(永谷委員)

一つは大事なものは、まず続けられるかというところで考えると、これがきちんと、今の話が入った時に、稼働率が他は高いという話と稼働率が高いからといって続くかどうかというのはまたちょっと違うような気がしますし、そここのところを押さえてから本当はやっとかなきゃいけないのではないかな。

もう一つは、矢内委員がおっしゃったことはまさにその通りだなと思って、他が持っているからこども持っているという話の説明だとかなり苦しいかなと思いました。

もう1点。例えば、「サービスロボット実証実験スペース」の話はわかりやすく、こういうことが求められているからこういうスペースを作りましょうと。特にそこで、個人的には、ここに来ると、何かしらの評価ができてお墨付きがもらえるからここに来るという格好で回るようになってると良いのではないかなと思っていて、単にお店みたいなものを作ったので使ってくださいということだと、「どこかもっと別のところ行けばいい」みたいな話にもなってしまうので、何かインセンティブを企業にも与えられるようなものが、さらに仕組みとしてあると良いと思って、その点を付け加えさせていただきました。

実際にどう作るかという話になった時に、人を呼んできちんとそこでアクティビティを保って回すという時にレンタルラボがあると、どんどん人が入ってくるからいいという話は、結構、イメージとして湧くので、他が持っているからというよりは、ここできちんと、外からいろんな人をきちんと集約してできるというところを前面に出して説明をされるのがいいかなというふうに思いました。また、カンファレンスルームは、自前でなくてもいいかなとさっきの話を伺うと思ってしまうのですが、あるとどんな良いことがあるかと言えば、あればきっと良いことがありますよね。そこはバランスで決まってくると思いました。

(目良委員)

事務局の方から何か聞きたいことは。

(小貝次世代産業幹)

私の方からは特にありませんが、この施設をこのように整理するというのが、この資料だとちょっと唐突感があったので、なぜこれが必要なのかというところを整理しないといけないと思っております。委員の皆様からのご意見を踏まえ、本当にこれが必要かどうか、もう1度考えさせていただきます、中間報告で整理させていただきたいと思っております。

(目良委員)

次の質問をさせていただきたいのですが、資料の6ページの支援対象分野の関係で、重点支援分野として7分野、成熟・低成長の分野があるのですが、中でも特に、医療は例えば移動・モビリティ、介護・福祉分野で対応ですとか、アミューズメントについては生活支援分野で対応、もしくは、この右側の表で、主たる支援分野に親和性が高いものをやりますというふうに書いてあるわけですが、まずはこういう整理で、主な支援対象について重点7分野という考え方で漏れがないかの確認をお願いしたい。

また、親和性が高いものとかをやらないわけではないといろんなところで書いておりますが、その辺もう少し何か書き方を工夫した方がいいのではないかと思ったのですが。

まずは、漏れがないかどうかについて皆様方のご意見をいただければと思います。

(永谷委員長)

これも順番に振らせていただきます。

(神山委員)

ほぼ網羅されていると思って見させていただいておりました。結局、どこに入るのかわからないものも出てくるとは思いますが、最終的には、ここに書かれているところに収まってくるかと思えます。

(矢内委員)

私はここにある分野で、とりあえずはいいと思います。特にフィールドが大きいところですので、こういう分野が一番ふさわしいのではないのでしょうか。

(大木委員)

私も漏れという意味ではあまりないと思ってしまして、高成長のところも選び方としては、完全に市場から持ってきたと思うので、そういう意味ではちゃんと選定されてると思います。

コメントが出ていたかもしれませんが、盛りだくさんだなという気は少々しておまして、注力すべきところとは、この中でも幾つかきちんと整理しておく必要があると思いました。

(永谷委員)

大木委員が話されたように、強弱については予算の関係もあるし、広さの関係もあるし、今後出てくるだろうと思えます。分野としては整理の仕方としては大変よく調べられて、すごくわかりやすく、私もこれで十分網羅されていると思えます。

ドローンという言い方をしてしまうと、いらいんなところにかかってきてしまうから、むしろこういう整理の方がわかりやすく良いと思いました。

(目良委員)

最後にもう1点、いろいろ伺ってしまって申し訳ありませんが、今回、策定するセンターについては、5年後、10年後も機能をさせていかなければいけない。しかし現在、1、2年でもすごく大きな変化がある中で、すぐに陳腐化してしまうようなことがないのかということは絶えず心配な事項であるわけです。そういったものに対応するために融通が利くような形に作らなければいけないということもあるのですが、財源に限られる中で、整備に関して、こういうのは仮設でいいとか、工夫をしている事例をもしご存知であれば教えていただければと思います。

(神山委員)

何度か見に行ったことがあるのですが、JAXA でそういうある種のフィールドを用意して、いろんなパターンを試すということをやられている。例えば、宇宙空間とか月とか火星を想定したフィールドを用意していますが、そこは最初はただ砂があるだけの施設でしたが、状況に合わせて、少し大きな岩があったり、坂を作ったりなど、そういったことに柔軟に対応できるような作りにしておきつつ、全体としてもあまりゴテゴテしたような感じにしない建物にというのはあります。そういったところも参考にして、決め打ちにしないで柔軟に対応できるような形というのは非常に有効かと思います。

(矢内委員)

先程、委員長もおっしゃったように、やっぱり持続可能性のあるミッションをちゃんと持っていれば、ロボットがちょっとずれたとしても、何か違うものに転用できると思っています。せっかくいいフィールドがあるので、そのフィールドはいろんな面で変えられると思います。それは工夫次第だと思っています。

(大木委員)

何か先を見越してものを作るのは非常に難しいと思いますが、今まで出ていない意見でいうと、市場の選定のところで、先の長いユースケースを対象としたものを選ぶというのが、まさに今市場規模から分野を選ばれているというのは、できるだけ長く使えるようにすることとの裏返しなのかなと思いますので、まずそこで担保するんだという考え方は一つの考え方ではないかと思います。もう一つは、先程、永谷先生のご発言にあった、サービス面のところで、できるだけ標準的な規格で、計測なり試験なりができるようにすることです。そのやり方自体、長く使われるものなのだと。モノというよりは、実際の試験の方法と組み合わせるといところは割と重要なポイントなのではないかと思います。

(永谷委員)

最後に、私からなのですが、今、大体意見が出たところで全部アグリーというか、僕の意見なのですが、例えば中間報告(原案)の4ページ目にある大分県産業科学技術センターのマニピュレータの上についているドローンの装置ってすごく魅力的でいいのですが、こういうのがかなり危険だなと思っていて、つまり3年後5年後に使い道はあるのか、もしくは、本当に動くか、疑念があります。これはたぶんメンテがすごく大変な機械になってくると思います。

実は3Dプリンターですら、5年経ったら古くてしょうがないなどと言われてしまうので、「入れるときはすごいお金かかったのに」というので、そういう機材とかツールというのはちょっと注意したほうがいいかなと思っています。

入れる時にそれが長く使えるかを考えた方が良いでしょう。実は旋盤・フライス盤というのは、割と

長く使えるので、あったら喜ばれたりするのですが、逆に最新のものを導入すると、大抵 5 年後に陳腐になる恐れがありますので、そこは気をつけたほうが良いと思いました。

逆にさっきもお話が出ていましたが、例えば橋を点検するんだと言って橋を作りましたと。橋は相当なことがない限り変わらないので、使われ続けるだろうなど。ただ本当に橋をつくれればいかというのは、また議論が別なので、これはたまたま僕は思いついた例として、橋だったら 10 年後でも使われるので点検がなくなることもないし、違う点検方法が開発されてもそれがテストフィールドとして使われているというのは担保できるかなというところで、ユースケースで物を考えることは大事かなと個人的には思いました。

(目良委員)

ありがとうございました。どうしても役所で作る場合、最初の時はある程度金をかけさせてくれますが、その後が、ランニングコストとかについては、なかなか財政が厳しくなるということもありますので、参考にさせていただきながら、整備に努めていきたいと思えます。

(永谷委員長)

今、目良委員からいろいろご質問があったところは皆さん答えていただいたのですが、それ以外のご意見をいただきたいと思えます。発言順はまたこの(名簿の)順番でお願いしたいと思います。神山委員からお願いします。すいません。今の話でいったんよろしいですね。

今のやりとりでいったんこの意見は收拾して、目良委員からのお話として大丈夫ですね。

特に今こちらから出た意見についてと、福島テストフィールドにいらっしゃる杉本さんから何かございますか。

(日本総研・杉本)

私の方から特にございません。ご指摘いただいた点はまさにその通りだというふうに理解しておりますので、今後、見直し、ブラッシュアップをする際に反映していきたいと思えます。

(永谷委員長)

それ以外の話としてご意見、コメント等ありましたら、お願いします。まず神山委員から。

(神山委員)

コメントになると思うのですが、今、ロボットの研究開発であるとか、導入のフェーズというのがほとんど産業用ロボットから出てきているところではあるのですけれども。いわゆるコンピューターの発展によって、半導体技術、カメラであるとか、CPU の発展が著しい。それに伴って近年のロボットで一番進んできているのは移動に関する部分ですね。

カメラを使って周辺環境を認識して、ロボットがどういうふうに動けばいいのかというところが発展してきているというフェーズになっていると考えておまして、その移動が伴うものというのはここに挙げられているロボットでも非常にたくさんあります。農林水産に関してもロボットが走って収穫をするであるとか、点検・保守に関してもロボットやドローンが移動しながら点検をすると。物流・搬送の移動モビリティはもう言わずもがなですし、他、ホテル・外食に関しても移動というのは非常に大きなキーワードになっていると思えます。

その上でこの 22 ページの「ロボット開発支援フィールド」というところで、移動に関してテストを行うフィールドを多く用意するというところは、近年のロボットの開発状況に照らし合わせると、非常に有効なのではないかと考えられます。一方、どういった移動環境を用意すればいいかというところが今度は大事になってきますけれど、要するに、例えば道路にしても、ただ舗装

された綺麗なところがあればいいというわけではなくて、日本全国を考えてみますと、綺麗な道路ってそんなにないんですね。もう本当に都市部の一部にしかなくて、ちょっと農村部に行けばアスファルトはひび割れている。下手したら穴が開いている。道路のへりからすぐ川や側溝に落ちてしまうような、柵がない環境であるとか、道の真ん中に電信柱が伸びているとか、そういった環境が非常にたくさんあるので、そうした環境をどこまで再現できるのかが特に重要になってくるのかなと。

綺麗な道路だったら市街地で一生懸命交渉して、走らせれば済んでしまう話なのですが、そうではない場所というのも想定されていると思うので、そういった環境が用意できると非常に、今の時点では有効かなと。ただ一方で、先程もありましたけれども、その移動に関して成熟してきてしまったら、今度はそれはいらなくなってしまう可能性もあります。

そうなってくると、これも先程出ましたけれども、ここでこういう項目でこういうテストをしたらオッケーですという認証制度につなげていくような形になれば、継続的に、使い続けることができるのではないかなと考えました。

他にもう1点。6ページ。建設・鉱業のところ「既に大手ゼネコンを中心に開発・導入が進行しており、当フィールドが対象とする中小企業の実証・参入の余地が少ない」というふうに書かれていますが、ここに関してちょっと違うかなというのがあります。大手ゼネコンが中心に開発・導入していますが、ゼネコン自体が開発しているわけではないので。ゼネコンが、中小企業なりに「こういうのが欲しいのだけど」というのを行って開発しているのです。ここに関しては、今回の対象とするかどうかというのは置いて、中小企業さんがいろいろ協力できるような分野ではあるのではないかなと思いました。

(永谷委員長)

実はこの部分は僕が引っかかって何せ専門だからしょうがないのですが、ちょっと引っかかっちゃうところあるんですけども。はい。神山委員と同意見です。

(矢内委員)

基本計画の中にもありますようにその実証フィールド、イノベーションセンター等々で、タイプもあるのですが、具体的に素晴らしいものがあるんですけども、先程もあったような認証とか、認定とか、ある程度稼げる、稼げるかどうかわかりませんが教育とか、そういういろいろなメニューがもう少しあればいいと思っていまして。そのメニューとしてどれだけのものが挙げられるのか、ちょっとその辺もちょっと用意した方がいいのかなと思います。

性能評価もそうだし、使う側の人たちの認定とか、そういう人達のための教育訓練をするなどの場になってもいいと思うので、ぜひそういうメニューがもう少しあっても良いのかなと。実証とかイノベーションのためのセンターというだけではなくて、何かそういうある面では稼げるんだったら稼げるようなものを用意しておくというのがあると思います。

(永谷委員)

認証については大木委員に伺えば良いと思いますが、ドローンだったら何かしら認証というストーリーは何となくこれからできそうな感じがするので、それ以外のものでも特に移動については認証というのは、今のところ何もないと言っているんですよね。特に、移動だけで言えば、ちょっとだけあるのは不整地を走行する移動ロボットというか災害ロボットの認証というか、「これは標準フィールドです」みたいな標準フィールドを作りますって勝手に定義してしまえばいいですよ。本当はね。「ここに標準フィールドあります。移動の。」と言って、どうせ世の中にならぬから。「ここでこれだけ走ればいいですよ」というふうに言わせちゃうみたい。それぐらいの感じ

でもいいかもしれない。移動については、と、勝手に思ったりします。

(大木委員)

今の話に関連して少しコメントさせていただきますと、認証というとやっぱりそんなに多いわけではやっぱないと思う一方で、標準化については非常に多岐にわたる標準規格もあり、新しく提案されているものもあり、ということで、それはその設備と一体化されているものでもあるので、そういう標準化を見据えた活動、取り組みというのは、サービスメニューという意味では結構重要なのかなと思った次第です。

それからもう一つ。地元との繋がりみたいなところは、元々あった構想の中で重要なポイントかなと思っています。それからもう一つ、地の利という意味では東京から近いということも、もう一つ大きな特徴だったと思いますけれども。そういう圏央道周辺で、ものづくり企業が集積していますということと、東京に近いですねという特徴が、今、この基本計画に向けた検討の中で、どのように反映されて、されようとしているのかっていうところを、一つ質問としてお聞きできればと思いますが、いかがでしょうか？

(永谷委員長)

今のご質問について。杉本さん、お願いします。

(日本総研・杉本)

地元との連携に関しましては、県の方とご相談する段階で、隣接地域も含めて鶴ヶ島の地元の方が実際に行き来されるような動線、隣の運動公園などもありますので、ポテンシャルはあると思っております。

ただ、そうした方がこちらのフィールドに来られるとか、何かイベントをやるというところが、どこまで実際に可能かということに関してはまだ少々議論のあるところで、例えば福島のロボットテストフィールドですと最近では地元の小中学生や住民の方を招いたイベントなどを結構盛んにやって交流を持とうとしているなどもありますので、そういったところはこちらで、いわゆる存在を理解していただく、地元の方に認知していただくという意味では、どの程度できるかということが一つ課題です。あと企業に関しましては、先程のコワーキングスペースなども含めて、際に出入りいただく機会をどこまで作るかという、その場所の提供も含めてまだ検討課題として残っていると理解しております。

もう一つ、東京の近さということですが、難しいところとしましてはドローンを飛ばすというところで、例えば福島の方ですと、航空法の適用除外になっていたりと、かなり、飛ばせる状況である一方、その鶴ヶ島の環境を考えると、どこまで広いフィールドが用意できるかという、例えば物流ドローンにしても、若干制約があるかなということ、ヒアリングの中でいただいたのは、例えば圏央鶴ヶ島に近いということを生かして、何か物流拠点のイメージで東京から荷物が来て、配送拠点のイメージでやったらいいという意見もありましたが、東京への近さというのをどこまで取り入れて、ここのオリジナリティとして売り出すかというところはまだ模索段階であります。

例えば東京への近さということですか、フィールドの自由度を高める、ドローンをより飛ばせるとかいうところでは制約がございますので、実際のデザインの中でどこまで吸収すべきかについては、もし可能ならば、何かご意見をいただける機会があれば幸いです。

(大木委員)

もし、東京との繋がりみたいなことは、一応最初は考えたけれども捨てるのだということであ

ればそれはそれでいいと思います。もう一つ、地元と言ったのは、その地元の企業のことを考えていたわけですが、実際に核となるユーザーとなりそうな企業というのは、やっぱり事前に押さえて話をきちんとしておくことは重要ななと思いましたので、そういうことをされてるということであれば結構かなという趣旨でございます。

(日本総研・杉本)

大木委員の今のご指摘に関しましては中間報告の原案の取りまとめと並行しましてユーザー調査と、地元調査ですね、地元の想定される連携施設等にヒアリングを進めておりまして、具体的にこちらのフィールドが開設された場合、どういう形で使っていただけるか、あるいはどういう形で地元の企業として連携等していただけるかというところを、まさに把握している途中でございます。その意味でご指摘のところは、今後の調査、進捗、進行に関しまして、適切に反映していきたいと考えております。

(永谷委員長)

私の方から感想というかコメントというか。さっき少し意見が出てきましたけど、やっぱり盛りだくさんな気がしてそこから強弱をつける、もしくは、もうちょっと絞るという話はお出ざるを得ないかなと。例えば、私自身は結構、点検ロボットとかそういう話もやっているものですから、そういうのがあるといいなという気持ちはあります。

でも橋を作る金額と、それを使う人の数を考えると本当に釣り合うのかというのはどうしても考えてしまいますし、鋼橋とコンクリート橋の両方作ってくれると嬉しいというのはまさにその通りなのですが、すごい金額ですよみたいな話にもなってしまうので、そこはバランスを考えながらやらないといけない。本当にどこまでいるかという話ですね。

多分、物とシステムを作って、まずここで試して、それでもうちょっと現場に近いところで使用すると。ある意味ステップの、その途中の段階で、途中の段階でできる、そこで提供して意味があるものをうまくチョイスしていかなければいけないかなと。

一番最後までやろうと思えばできちゃう。作ろうと思えばできちゃうのですが、それだと結構つらいところが出てくるかなというのがあってバランス感覚が必要だなというふうに思いました。

特に、例えば農業なんかも、結局、圃場を作るのはいいのですが、ロボットをトマトでやって次、イチゴでやるかっていう話で、ターゲット取りかえるのは簡単だけど、地面まで全部取りかえるみたいな話になるとそれなりのことになってしまうので、そのお金は誰払うのみたいはところまでは、結構いろいろ大変なことがあるかなと。あとは規模どのくらいするみたいのところも考えなきゃいけないところはあるので、農業の話を広げすぎると、辛いかなと直感的に感覚は持りました。

あと認証の話はさっき少し出てきましたけどもこれはもう何かそこを売りにできると、差別化もそうですし、皆さん利用してもらえないかなという印象を持ちました。

あまり議論してなかったような気がする介護、ホテル・外食、生活ですかね。そこら辺の話は多分、建屋の中の話になってくるので、それを本当にやり始めると、それはそれで相当お金突っ込まなきゃいけないぐらいの、僕、専門じゃないので規模感が想像できないんですけども、そこについても、バランスが必要かなと。

市場から絞っていくというところについては、そのアプローチで全く問題ないのですが、そこから絞り方をちょっと考えなきゃいけないかなというふうに思いました。

最後に半分これは雑談に近いのですが、ロボットという定義を、いつもこれはロボット屋さんの酒の席で出てくる話題なのですが、ロボティクスセンターとかロボットと言った時に、

「これもロボットでしょ」と入ってくるのかどうかというのが若干気になるころがあって、例えばドローンと言ったらもう僕らはロボットだと思ってないですよ。使われているから、相当。

自動車についても、自動で走るのをロボットとは言わないですよ。ロボットって言った時に枠を囲うということで、若干頭の片隅に置いといた方がいいかもしれない。ロボットと謳わなければ大丈夫ですが、ロボットと謳っちゃうと、これ怖いことに、ロボットって言った時に皆さんが持っているロボットのイメージはみんな違うので、そうすると「これロボットじゃん」と言ったり「ロボットじゃない」と言ったりということがあるので、ここについては、雑談程度に聞いといてくださいというところですかね。

私が皆さん聞いた意見を参考にしながら考えたことは以上ですけれども、今、話が出た中でまた何かご意見があるかもしれないのもう一周したいと思います。

(神山委員)

先程の認証の話も何度か出て来ているのですが、特に、今、私が携わっているんですけども、配送ロボットに関しては、ご存知の方もいると思いますが、先日、内閣から緊急提言が出されまして、ロボットに関してルールづくりを進めるところは出ていますので、これから多分、来年度にかけて、そういったルールづくりが進められていくと思いますので、それを注視していただいて、このフィールドの作り方に役立ててもらえればと思います。

(矢内委員)

今、神山さんがおっしゃったように、このラストワンマイルのやつが結構面白いのではないかと考えています。今、楽天の方が入っていますよね。ウシジマさんなんかは経産省のちょうどロボットの担当補佐でしたので、非常にロボットの思い込み（思い入れ）が強いので、一気にこれはいくと思っています。ですので、そういう関係のことも期待できるのかなと。

(大木委員)

ちょっと違う観点で、もう1点だけ質問させていただければと思いますけれども、前回ここで集まってやった時の議論の中で、サービスの観点で試験設備を整理していくという考え方と、あとは割とそのロボット共通の基本機能を検証するような機能を持たせるべきじゃないかという議論があったように記憶しています。今の結論としては、サービスの方で整理されたと認識しています。それはそれで私は良いと思っていますが、もし何か基本機能の方を、それはないよねと整理された背景みたいなものがあれば教えていただけるといいかなと思いました。

(日本総研・杉本)

今回の基本計画の策定に向けて、県の方と相談するにあたり、まずユースケースの方をベースに進めていくということで、進めて参りました。

一方で、大木委員にご指摘いただきましたように、基本機能、共通機能のところを見ていくというアプローチもあるかと思いますが、そのところで、多分ご指摘の点はロボットの基本機能というところだと思うのですが、基礎研究的なものよりはむしろ出口に近いところで、ユースケースが具体的に見えているところで、市場が見えているところで支援をしていくというアプローチを考慮しますと、具体的に分野別の方が、どういう形でロボティクスセンターが取り組むべきかのフォーカスが当てやすいという県の方のご認識と思います。

ユースケースというところに重点を置いて、今回、進めさせていただいております。基本機能というところは決して捨てるというよりも、ユースケースという形で見ていた方が、具体的な市場であったり、そのロボットの形であったり、あとはユーザーですね、このフィールドのセンタ

一のユーザーが見えやすいところもありますので、そういう形で少し舵を切ったとご理解いただければと思います。

(大木委員)

よくわかりました。恐らくそういう形で、結構、舵を切られているタイミングっていういろいろあると思ってまして、そこはスコープを決めたターニングポイント的なところが、この基本計画を立てる時の特徴ということだと思います。選んだということを中心に整理してまとめておくことはわりと重要なのではないかなと思いましたので、今あえてこういう質問させていただきました。そうした観点で整理されると、今後の進むべき道とか目的とかが逆にはっきりしてくると思いましたが、コメントさせていただきました。

(日本総研・杉本)

ご指摘ありがとうございます。意思決定ポイントは大事だと思いますので、整理して、今後の基本計画の取りまとめに向けて進んで参りたいと思います。

(永谷委員長)

目良委員は何かございますか。

(目良委員)

お話を聞いていて、基本計画を今見ましても、これに基づいて関係各所でいろいろ説明していく必要性が出てくるわけですが、埼玉ならではの鶴ヶ島ならではの地域特性的なものももう少し何かないかなと。あとは地元との交流の仕方、地元における位置付けという部分についても、何かしらの基本的コンセプトに盛り込む必要があると思ったので、その辺につきましても協議していきたいと思いました。

(永谷委員長)

ありがとうございます。何か地元、さっき少し福島の例が出ていましたが、委員の中で地元との絡みのところで、もしいいアイデアがあればここでご発言いただければと思いますけれども、いきなり振られても思いつかないかもしれませんので、いいアイデアありましたら、後でメールか何かで事務局にお知らせいただくということでもよろしいでしょうかね。

私の方からは、皆さんからいろいろ出てきた話の中で、特にラストワンマイルの話がクリアできる環境が作られると、それは10年後でも、多分ずっと続きますよね。ラストワンマイルは5年で全部仕上がっても5年後には、うちに宅配がすぐ届くということになるような気はしないので、そこについては、これがクリアできればいいよというような環境を、鶴ヶ島のそこ（フィールド）の中に作れば、それを外からつなげれば、それこそ物流と何かの拠点と高速道路と繋がるという話はストーリーとしてはもしかしたらありかなと。何となく思いつきでしゃべっていますが、そういうようなことも考えました。

それでは、概ね意見も出揃いましたので、本日の議論で示された意見などを反映する形で、事務局にて原案を修正いただき、中間報告として作成いただければと思います。

委員の皆様、ありがとうございました。この後の進行は、事務局にお返しします。

5. その他

(小貝次世代産業幹)

〈今後のスケジュールについて〉

6. 閉会

(堀口主幹)

〈閉会〉

以上